

天皇陛下に 五霞町産の米と粟を献穀しました



皇居で行われた「新嘗祭献穀献納式」に参列した栗原英夫さんご夫妻（前列右から2人）と曽根喜平さんご夫妻（前列左から2人）、染谷森雄町長、茨城県農林水産部の井上計部長（後列右から）

10月27日、皇居において「新嘗祭献穀献納式」が行われました。

新嘗祭は、例年11月23日（勤労感謝の日）に皇居で行われる、新穀を供え感謝する行事です。起源は古く、『古事記』にも天照大御神が行ったことが記されている歴史あるもので、宮中恒例祭典の中の最も重要なものとされています。

それに先立って行われる「新嘗祭献穀献納式」は、新嘗祭に使用される米や粟を、各都道府県から選ばれた生産者が天皇陛下に献納するもので、毎年10月下旬に皇居で実施されています。

この栄えある行事に、茨城県を代表して、五霞町から原宿台の栗原英夫さんご夫妻が米を献上し、山王山の曽根喜平さんご夫妻が粟を献上しました。献納された米と粟は、天皇陛下も召し上がること。天皇陛下は、お出ましにはなりませんでしたが、無事献納できたことに参加者一同、感激もひとしおでした。

町遺族会戦没者追悼式が行 われました

10月2日、役場忠魂碑前にいて、先の大戦での戦没者の霊を慰め、平和を祈念することを目的として、追悼式が厳粛に挙行されました。

式典では、全員での黙祷後、染谷町長から式辞、猿橋遺族会会長、宇野町議会議長から追悼のことばを頂き、戦没者の御霊の安らかな御冥福をお祈りし、参列者の皆様は献花をしました。

また、終戦から71年もの歳月が経ち、戦争の惨禍の記憶が風化しつつあることから、戦争の悲惨さや平和の尊さを広く後世に伝えるため、五霞中学校生徒会代表も参加しました。



行幸湖浮きウキフェスタ28 が開催されました



10日30日、五霞町、幸手市、久喜市の境界にある行幸湖と権現堂1号公園において第12回「行幸湖浮きウキフェスタ28」が開催されました。

近隣の団体、町内企業等による体験、飲食、展示、販売の16のブースと、ごかりん等のゆるキャラやバンド演奏等ちんどんによるパフォーマンスが繰り広げられ、大勢の方々が楽しいひと時を過ごしていました。

今年の「浮島づくり」は浮島を4基作り行幸湖に設置しました。五霞町から浮島づくりに参加した方からは「参加してよかった、来年もぜひ来たい」との声が聞かれました。